

茨木市立天王小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)	概ね良好な結果であった
--------	-------------

(その他)

もっとも正答率が高かったのは「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」設問である。一方で、もっとも正答率が低かったのは「読むこと」の領域で、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」設問である。

無解答率が高かったのは「書くこと」の領域で「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが
ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問で記述式の問題である。選択式
の問題では全てにおいて、無解答率は低かった。

分析

全体的におおむね良好な結果であった。「A 話すこと・聞くこと」の正答率が高く、前回の「やや課題が残る結果であった」を受け、取り組んできた成果が一定出た。ほとんどの領域で全国平均を上回っている一方で、「B 書くこと」が全国平均と同等であった。本校ではこれまで「書く力の育成」に取り組んでおり成果を上げてきた。例年の結果と比べると満足いくものではなかったもので、取り組みの見直しを含めて改善が必要である。

無解答率は全国平均より全てにおいて低く、概ね良好な結果であった。強いて言うならば、後半の問題で無解答が目立ったので、時間が足りなかったことが推測される。

またアンケート結果からは、言葉の活用や、自分の考えをまとめて発表し交流することへの苦手意識を読み取ることができた。

今後の授業では、意味調べや「かきかきタイム」を継続し、その中で培われた語彙力や語彙の活用力を活かした文章構成を意識させ、発表交流の場も積極的に設けていくような学習活動を取り入れていく。

〇●算数●〇

(領域ごと)

①A数と計算	概ね良好な結果であった
②B図形	概ね良好な結果であった
③C測定	概ね良好な結果であった
④C変化と関係	良好な結果であった
⑤Dデータの活用	良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率が高かったのは「データの活用」の領域で、「6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ」設問である。一方で、もっとも正答率が低かったのは「図形」の領域で、「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」設問である。

無解答率が高かったのは「数と計算」の領域で「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」設問で記述式の問題である。全体的には無解答率は低かった。

分析

全体的に概ね良好な結果であった。「変化と関係」、「データの活用」の領域は全国平均を大きく上回っており、速さと道のりを基に時間を求める問題、表やグラフから適切なデータを読み取る問題の正答率が特に高かった。また、無解答率が低く、難しい問題にも最後まで諦めずに考えていることが分かる。このことは、普段からの学習に対する取り組み一つひとつの積み重ねが、成果として現れていると思われる。

一方で、問題形式の解答結果から考察してみると、「選択式」や「短答式」と比べて「記述式」の正答率が下がる傾向が見られた。さらに、「算数の勉強は好きですか」、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか」といったアンケート結果からは、児童の算数に対する苦手意識が読み取れ、今後の課題として残った。

授業の中で、自分の考えをノートに書いたり、求め方を道筋立てて説明したりする学習を充実させていくことや、児童が算数の学習に興味・関心を示し、意欲的に活動できるような授業展開の工夫を学校全体で考えていくことが重要である。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

正答率については、全体的に概ね良好な結果である。

平成 21 年以降、前年を少しずつ下回る結果となっていたが、平成 26 年度で正答率が概ね良好になった。それ以降は再び前年を下回る結果となり、平成 31 年度の正答率は平均を下回っていた。しかし今年度の調査で平均以上に持ち直すことが出来た。教科別に見ても、国語・算数共に良好な結果と言える。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

前年度までの傾向では、学力低位層の児童の割合が増加していたが、今年度は減少傾向にあった。学力高位層についても前年度と比べると増加傾向にある。エンパワー層については、一昨年度よりも大幅に減少しているが、全体で見れば平均より少し下回っている結果である。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

1、基礎・基本の定着を図るための全校的な取組みの推進

- ・算数科での反復練習、ドリル学習の取組みをすすめる。
- ・国語科での漢字練習の習慣化、音読、視写の取組みをすすめる。
- ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の習慣化に向けての取組みをすすめる。

2、「できない」「わからない」児童への手立ての工夫

- ・授業の工夫（習熟度別授業、T T 指導、I C T の活用等）をおこなう。
- ・「できた」「わかった」など達成感と喜びを味わえる授業づくりをおこなう。

3、「考える」「調べる」「話し合う」「解決する」過程を大切にした授業研究

- ・問題解決学習、仮説実験の授業、調べ学習などを取り入れた授業づくりをおこなう。
- ・タブレット、ペアや班、グループでの聴きあい、話し合い活動を取り入れた学びと学び合いのある授業づくりをおこなう。

4、研究授業、公開授業の実施

- ・授業研究部、人権教育部、支援教育部による研究授業・公開授業を実施する。
- ・一人一台のタブレットを効果的に活用した研究授業を実施する。

5、朝の一斉読書

- ・週一回（月曜日）に全校一斉に「朝の読書」をおこなう。
- ・図書ボランティアの方による読み聞かせを実施する。

6、朝の一斉学習

- ・「朝の学習（かきかきタイム）」を実施し、作文の基礎・国語の表現力の育成をおこなう。

7、学習サポーターの活用

- ・学力向上のための個別指導や入り込み指導の取組みをおこなう。

8、学校図書館を活用した国語力の育成

- ・学習サポーターによる読書活動、図書館活動の支援をおこなう。
- ・学級図書の時間を活用し、低学年の読み聞かせ指導をおこなう。
- ・図書委員会を中心に児童に図書館利用を促す活動をおこなう。
- ・読書感想文コンクールなどに積極的に参加し、感想文の書き方等の指導をおこなう。

9、小中連携の強化

- ・小中連携担当教員による情報交流、実践交流をおこなう。